《第七分科会　教化組織部会》

寺院及び宗門の教化に関する組織化を推進するために

分科会をいくつかに分けた関係もあって、参加者八名比較的若い人が多く、後から出入りもあって討議参加者は研修所員も含めて十二、三名の少人数で、膝つき合せて話合うという打ちとけたフンイ気、座長は最初運営委員会で分科会討議の方向について話合われた。

1　七百遠忌をいかに盛上ぐべきか
　七百遠忌以後の教化はどうあるべきか
2　第十二回身延結集大会宣言の具体化
3　立正安国の現代的把握と実践

等の問題はできるだけ討議の際触れていきたいことを要望し、二日間討議の内容について運営井藤師の提案もあって、

1　基調報告をふまえ統一テーマについてみんなで話合う
2　宗門教化の拠点である各寺院の教化の実状と組織化
3　管区、教区宗門全体の教化組織
4　教研会議のあり方、教化センターの設置

発題者の提案をもとに討議を進めることを確認して討議に入った。最初、統一テーマ「立正安国の精神と八〇年代の教化活動、特に教化の場としての寺院と教化の担い手としての教師のあり方」について話合った。

石井錬昭師は、八〇年代を宗教時代というのは、いささか疑問だが、オカルトブームなど無宗教者の宗教的関心は無視できぬ。中野所長の講演にもあったキリスト教の仏教への接近は注視せねばならぬ。キリスト者は積極的にどの家庭にも入り込んで来る。吾々の寺へまでやってくる。「みんなを幸にしたい」と話込む。パンフレットを置いていく。自浄的に生きる心、キリストの愛をまともに自らの信仰体験で受けとめていると思うと発言。つづいて次々と各師から発言

●近代文明の行き詰りは深刻に受けとめねばならぬ。創価学会のスキャンダルがマスコミで次々取上げられ内部崩壊の危機にあると言われる。しかし学会の行き方は一つ

の宗教革命のさきがけだった。信徒大衆にくい込んだ法難意識は強固なるものがある。簡単に崩壊するとは思われぬ。私の石川県は真宗王国であるが真宗の一派にも教団改革の新しいエネルギーが燃え上っている。石川（山川）

●実践倫理宏正会というのがある。宗教ではないといい、実践倫理をモットーとしているが、若い主婦等を多く惹きつけ「朝起き会」の実践など大したもので、機関誌「宏正」を熱心に売りつけている。立正佼成会にしても学会にしても機関誌の拡張が第一の信仰実践と考えている。新興宗教は自分の得た教えを伝えることに喜びを感じている。法座等に見られる協同体意識は根強いものがある。吾々も縦の関係だけでなく横のつながりに立ち教化を進めねばならぬ。座長（岩堀）

●私の寺では毎晩三〇名程を集めて法話をし、お加持をして座談会を開く。集まる者は浄土真宗が多い。石川（山川）

●新しい宗教的運動が段々仏教のワクを冒している。まず自分の檀信徒を教化せねばならぬ。北九州ではテレホン説教の教化活動が効を奏し、本にしても出し、「地涌の会」という信者組織が伸びつつある。福岡（高崎）

●今の既成仏教は葬祭仏教でしかない。八〇年代に向け葬祭仏教は果していつまでつづくか、宗祖の立正安国の宗教の独自性を今こそ現代に生かすべきでないか、七百遠忌以後の大事な課題である。発題（石井）

●葬式仏教の批判は多くなっているが、宗門の現状は先祖供養で支えられている。お施ガキは盛んで参詣者も多い。年忌法要、月経に追い廻わされている寺もある。ことにあぐらをかいているが、時代の推移は大きい。今もっと新しい方向に目を向けねば、宗門の危機が訪れるのでないか。座長（岩堀）

●学会の集りは楽しいフンイ気があり、若い者が魅せられているが、力のある実践（運動量）が乏しいので不満を感じているものも多い。石川（山川）

●生長の家など最近政治的なものに結びついて実践運動にのり出そうとしている。霊友会や佼成会も先祖供養を重視し、位牌の法名を書改めたりしている。先祖供養というものが日本の仏教の中に永く喰いこんでいる事実は率直に認めねばならぬ。発題（石井）

●日本の仏教はやはり家の宗教である。外国では個人の宗教であるが……。日本仏教はまだまだ葬式法要の域から離れない。家の宗教として檀那寺と結びついているのではないか。世帯主・家族の代表者を檀家として寺で待っておるというだけでは駄目で、各家庭の中へこちらから飛び込んでいって家族一人一人全員に働きかけるべきである。鳥取（田中）

ここで座長は「統一テーマとして立正安国の精神をどう把えて、現代的に教化活動の上に具体化すべきか」につい

ての意見開陳を求めたが「立正安国」の現代的生かし方は第一分科会に任せた方がよいのでないか（井藤）の意見もあって、統一テーマの八〇年代の教化に対する自己批判的意見がつづいた。

●寺に対する考え方、今日世間が僧侶をどう見ているか、厳しく反省せねばならぬのでないか。表向きは坊さんを敬うように見えるが心の中では「何だい糞坊主」と思っている。僧侶を軽蔑、無視する方向は強まっているようだ。（吉橋）

●戦前と現代とは僧侶に対する敬い方が全く違う。僧侶も俗人の一人にすぎないとしている。僧侶自身も人天の大導師などの気概はなく俗人に成り下がっている。

座長（岩堀）

●坊主の特権意識は反省せねばならぬが、僧侶に対する社会的評価は苦にしなくてもよい。いつの時代にも愚僧、悪僧はいたから吾々は悲観的になる必要はない。今日の大衆が人間の能力を超えたオカルト（霊能）に非常に興味を持っている。人間の意識を超えた世界を求めている。予言とか占いとかに対する関心、こういった人間心理は科学時代だけにこれからの宗教は大事にせねばならぬ。キリスト教の自浄運動など仏教も考えねばならぬ。信行道場の純粋化など一層努力せねばならぬ。仏教から葬式がなくなっても悔ゆることはない。法華経が真に必要であるかどうか、現代人の救いの宗教としての価値を確信して教化にとり組まねばならぬ。運営（井藤）

座長はここで統一テーマについての話合いを打切ることにして本題の研究に入り、石井錬昭師の発題提案をきく。石井師は資料を提示しながら、次の点を力説した。

●宗門の布教伝道は理論として存するものではなく、宗祖の信仰を他に伝えることで、その信仰の理念――立正安国の精神に立って他をして宗祖と同じ信仰生活に入らしめることが中心でなければならぬ。

伝道教化の拠点は寺院である。その担い手は教師である。最前線に立って宗祖の教を自己のものとして信仰を確立し、布教に献身すべきである。布教の手段としては、

(1) 儀式法要
(2) 口舌講説
(3) 文書伝道
(4) 事業教化

等が挙げられる。個人教化から家庭教化へさらに多数教化へ、場によって方法も違ってくる。

葬式仏教化した寺院の魅力がどこまでつづくか、先に疑問を投げたが、寺院の再出発が必要である。固定化した檀家のみでなく未信者（若年層）への布教が重要なものとなってきている。寺の内にのみとじこまらないで、学校、公民館、婦人会、ＰＴＡ等一般社会教育の場にまで

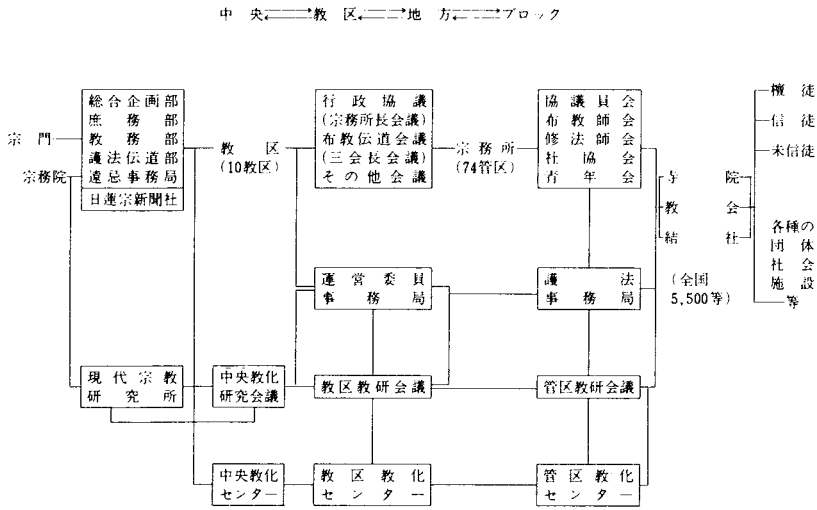
手を伸ばさねばならない。

本宗の布教は縦の組織はできているが横の組織化ができていない。各個単位の寺院活動は行われているが横の連帯が欠けている。ブロックから管区へ、管区から教区へ、教区から宗門へと、組織が拡大強化されねばならぬ。（石井氏資料「布教伝道組織図」）図式的にまとめると一応形はできているが、それが一向に動いていない。今宗門が実施している統一信行から特派布教への展開も、もっと組織的に強力なものにならなければならぬ。ここに教化研究会議の果す役割は大きい。地域教研がしっかり位置づけられ中央教研との有機的運営が確固たるものになることが望まれる。ここで強調したいのは、組織の基本単位となる「細胞」は単位寺院であり、教師自身であるということである。

座長は提案を受けて、ここで教化組織を論ずる前に、基本単位となる「細胞」ともいうべき各寺院の教化活動を反省し、それ時代の組織化を考えたい。教研会議も毎回どうもきれいごとで終っている感じがするので、優れた実践はぜひ発表してもらいたいが、問題のあるところ、教化が困難な点も率直に洗いざらしに話合い、問題解決の方向を見出したい、と提言、討議に入った。

●真宗王国の石川県だが、王国の座に安住して真宗の坊さんは高圧的であるとの反発が信徒の中にある。私はこう

布教伝道組織



した声を耳にして家庭を訪ねて一人一人と触合い精神的コンサルタントの役を果したいと努力している。子どもの問題には親はいろいろ悩んでいる。家庭内の暴力など現実のものとして困っている。非行化の問題も相談にくる。近くには児童相談所もないのでみんな寺へ来る。子ども会の行事など仲間に入って子どもととけ合って指導している。又毎晩のように聞法の集いを開いて精力的に庶民の中へとけこむことに努力している。地域救済をスローガンにして五年になる。初めは大体修法から入って今に至っている。なぜ私の寺へ来たかときくと「お経よむ声がよい」「汗かいて一生懸命やるのがよい」という。口コミでどんどん集ってくる。貧しい家から高額のお布施をもらったので、半分位品物で返したのがよい結果になったこともある。石川(山川)

●檀家にしても信徒にしても困ったことのない人はない。私は「ゼロ距離作戦」と名づけ、寺と檀家との距離をなくすることに努力している。お寺にマイクを取付けて朝勤を地域社会に放送して聞かせる。寺には水子地蔵が四五〇体程ある。法華経信仰の具体的目ざめによるものである。万遍唱題行の会を組織したが、独特のカードをつくって、自主的に彼らだけでやらせている。毎朝グループで太鼓を叩かせて、唱題カードに記録して、お祖師さまの前に供えさせる。住職がつき合ってやっていると体力的に無理がある。神奈川(石井)

●東京のドーナツ現象は益々進み毎年檀信徒名簿を書直さねばならぬ。都市における過疎化である。越していった檀家をどうして把えるか悩んでいる。核家族化したサラリーマンの教化は簡単でない。東京西(富山)

●檀家は二〇戸ばかりでみな他県から流れてきたものばかり、檀家をまとめるに苦心した。やっと今年始めて護持会ができた。宮崎(森)

●安芸門徒と言われる真宗王国は、葬祭一本槍の寺院経営である。檀家は四〇戸、万遍唱題行の会、信行会等何とか横のつながりをつくりたいが、今の処こちらから出かけていくという方法をとらねばならぬ。お経に行ったら話合う。出かけていくと向うからも出来る。心の安まる糧を与えたい。近くの寺は兼職か、何かの勤めに出ている者が多い。組寺の動きであるが、檀信徒協議会の組織に力を入れ、年二回研修会を開き寺の縄張りを越えて交流している。教化は各寺互に手をつないでやっていかねばならず、住職一人では無理である。広島(吉川)

●県内の本宗寺院一八六ケ寺で裕福な県と云える。禅宗の盛んな所であるが真宗に比べて禅宗は信仰が薄い。私の寺の周りは五〇〇戸位の檀家がある能梵(優等寺院)ばかりで、私の寺は二〇〇戸、嬉しいときも悲しいときもお墓まいりに来る。ハガキ伝道を永年実施している。護持

会を組織して「信行必携」を持参させ、お経とお題目の会をやる。世話人クラスが一番お題目を唱えない。布教も口でいうようにキレイごとばかりではない。

静岡(中條)

●坊さんになって抵抗は感じたことはない。生れながら坊さんのつもり。寺の立地条件は良くなく檀家の移動転出ははげしく、つぶれそうな寺へ入って復興にあたった。一二〇戸(今は一七〇戸)大体百の墓がある。三年かかって三〇万の金を集めるのが大変でとても寺を建直すことはできぬ。病気で入院、全快後勧募をはじめてやっと七五〇記念事業で本堂を建てた。筆頭総代が二〇万程度で金集めはなかなか難しい。本堂の荘厳も不十分なので一戸三万を目標に今勧募している。仏教講演会を開いたら一人も来ない。地域は革新系が多い。総代会は二十年間やっていない。ワンマンでやっている。何かあれば総代の各家へ廻って決めてくる。今二〇〇戸位護持会費を集めている。一人一人の悩みを聞いて教化に当っている。本堂で一人だけでもお題目を唱えさせている。誰が住職しても困らない寺にしたい。岡山(井藤)

●「タコ坊主」とは真宗の坊主をいい、江戸末期に生れたことばで、タコは親も子も毛が生えていない。真宗のみならず現代の若い坊さんは「タコ坊主」になりつつある。どうしたらよいか。静岡(中條)

●サラリーマン生活から住職になった。病院に勤めていたが医者がどんなに儲かるかを知っている。薬づけの患者が悪くなるのは当然である。心身医療をお寺で果したい。護法団参は毎年やっている。池上参詣から唱題行への関心が高まり唱題行の会を始めた。二、三十名集る。お経を習う会は集まる者が段々ふえている。日本仏教の講義をやったが、もっと実践的な身近かなものをやってくれといわれ、法華経講話をやっているが種切れになった。

現宗研(吉橋)

●討議資料を出しているので実践の一端を話したい。三十八年の教職生活を止めて日曜学校を開いた。いろいろ工夫してやった。それなりの効果があったが、子供の成長によって変化が起り、それに毎日曜に子どもを集めるのが難しくなり、月一回の子供会に再編成した。「子どもがお経を習いよいお話をきいているのに親の方が恥かしい」という母親の要請で若妻信行会をつくった。読経練習法話、唱題行、座談会それに折々レクリエーションもやり団参もやった。座談会は子どもの教育問題に一番力が入った。入学や卒業を親子とも集って祝った。親子ともども新年会をやって楽んだ。御遠忌を機会に護持会の信行組織化をはかったが、今までの題目講に代って信行会が中心になった。護法統一信行もカリキュラムをつくって試みた。月経は負担ではあるが夜出かけ家族全員でお経を上げる

ようにしている。年回法事には皆経本を手にしてお経を一緒によみ、二、三十分の法話は必ずする。社会教育の面にも教職経験を生かして努めているが、地域は熱心な真宗信者が多く、新しい信徒層の獲得は容易でない。

座長（岩堀）

●仙台へ帰って四年目、本宗寺院は十ヶ寺で半分が新寺である。地域は大部分曹洞宗、檀家三〇〇では食えない。五〇〇以上が標準であるが県内寺院（一〇〇ヶ寺）では一ヶ寺五〇～六〇戸位、私の寺は八〇戸、私で三代目、初め檀家は十五、六戸だった。庫裡本堂を建立して、「ゆりかごから墓場まで」をモットーにお目出度い時も必ずお寺へ詣らせている。布教研修所、加行所、声明講習、布教師指導講座等研修に努め自分なりの理想や夢を実現しようと思っている。葬式仏教の曹洞宗王国を切り崩したいと思っている。宮城（草野）

以上で第一日の討議を終り、第二日は、教化組織化の問題を中心に宗門全体の教化組織から中央・地域会議のあり方、教化センターの設置について話合う。

●教化の方法は現代に対応するように工夫されねばならぬが教師の能力には限界がある。最大の効果をあげるためには組織活動が必要なことを痛感する。

神奈川の宗務所は四ブロックに分け統一信行も四ヶ所で実施している。毎月どこかへ行かねばならぬのだが、バックになったのは日青の活動で、布教師会などはやや傍観の嫌いがあった。ブロック十二ヶ寺で四ヶ寺づつが当番で実施、統一信行を通しブロック活動は定着した。ブロック毎に教師の研修会も行っている。講師中心の一方交通的な講義でなく討議形式による研修もある。高座布教の実修も科註箱を持つところから練習している。

檀信徒協議会の研修も一方的に話をきかせるのでなく、総布教の形で一人一人に話させている。檀信徒の活動には総代同志のつながりを強化せねばならぬ。

万遍唱題行もブロックで唱題修行カードをつくり、百万遍唱題功徳会を組織し、五六年池上で総結集を行い、唱題の功徳をお祖師さまの前にお供えする予定である。

ブロック寺院の組織化のため規約をつくった。自坊だけでやるのでなくブロック全体でやるので文句は言われない。尚私のところでは他宗派本位の仏教会から脱退しており、他宗派の影響は受けない。発題（石井）

●信徒青年会は日青を中心にした組織だが、今は崩れかけている。日青組織から独立した強力なものができねばならぬ。宮城（草野）

●組寺五ヶ寺・三ヶ寺は集まるが、集まる者はレギュラーばかり。鳥取（田中）

●寺だけでは難しい。檀信徒を主に組織化し統一信行等を通し活動する。檀信徒を動かせば寺も動く。檀信徒協議

会は自主的に活動させ、住職は参与になる。
広島（吉川）

●組寺十八ヶ寺毎月一回定例日をきめて会合する。出席しない者は罰金をとる。合同で宗祖降誕会をやり檀信徒は各寺へ割当て参詣させている。運営（井藤）

●施餓鬼、お会式の日取りは決めているが教化活動等はなかなか決まらない。忙しいのは事実だが教化活動を第一とするという姿勢は乏しい。石井氏のブロックのように組織的に動くよう各管区が組織されたら宗門も伸びる。
座長（岩堀）

次に座長は教区としての教化組織、教研会議、教化センターについて討議したいと提言討議を進める。この時、中野現宗研所長が分科会に出席、参加される。

●教区の教研会議は全国的に殆んど定着した。教研会議を宗制上位置づけて欲しい。現宗研は機構改革の趣旨にそうて主体的に動いて欲しい。教勢を通して宗務当局は取上ぐるべきである。
教区に教研会議があれば管区の教研会議はなくてもよい。教化センターも必要があればまず教区につくるべきだ。管区は宗務所に窓口があればよい。運営（井藤）

●中央教研は管区一名の参加で何か物足りなさを感ずる。各地域の教師の実績をとりあげるよう、各参加者にレポートを提出させたらどうか。石川（山川）

●出たい分科会に出られないのが残念、社会問題部会を希望したが、教研会議の成果がどの程度宗門に反映できるだろうか。現代社会の教化に対応する設備をそなえた教化センターを設けたい。福岡（高崎）

●教化センターに修法・社協等も入れられないものだろうか。（吉橋）

●教化センターは本宗の布教師、いや広く僧侶の勉強する場にしたい。発題（石井）

●宗務院は宗務行政の機関で、布教指導は教化センターをおいてやるべきである。問題は現宗研と教務部・護法伝道部との関係をどうするかである。日蓮宗新聞は法人格であるから教化センターと離れてよい。（吉橋）

●九州では、まず管区センターをつくるところから始まっているが、中央教化センターはぜひなければならぬ。
福岡（高崎）

座長は中央に教化センターをつくってほしい声を中野所長に伝える。所長答弁

●現宗研が当然中央教化センターの機能をもつべきものだと思うが、しかし現状では機能が発揮できていない。経済的にも確立していない。今後コンピューター等も導入、資材設備を充実したものにしたい。
一同は所長の答弁に期待し教化センターの問題を打切り、座長は教研会議の今後のあり方について意見をまとめる。

●誰でも参加できる教研会議を続けていくべきだ。まだ下部への浸透は充分でない。もっとPRに努めるべきだ。

宮城（草野）

●未開催地区もまだ残っている。宗務所長の理解と協力が何より必要でないか。

●教研会議を宗制上位置づけてほしい。（石井・井藤）

それに対して中野所長は、

●制度化されると官制のものになる懸念がある。お上の主催という感じになり、出発本来の意義が失われるのでないか。

と答えられる。これに対して、

●制度化は上から押しつけるという見解であるが、もっと安定したものにしたいものである。運営（井藤）

●今回も自主的に参加された方は数名ある。大部分は宗務所から旅費等が出ているようであるが、宗務所によってはノーコメントのところもある。全国的にバラバラである。もっと安定したものにしたい。（座長）

以上で二日間の討議を打切った。参加人数は多くなかったが、みんなが発言し自由に話合えたのは今までより前進した感がある。

〈岩堀豊種〉